

中心市街地再活性化への取り組みや

学校給食の「野田産米」への全額補助などを報告

平成20年第3回定例市議会にて、根本市長は、中心市街地再活性化対策の進捗状況や、材料費高騰対策として学校給食への「野田産米」の全額補助の取り組み、乳幼児医療費助成の対象者の拡充などを報告しました。本号では、その概要をお知らせします。

本年度の事業方針として申し上げました事項の進捗状況を、政策の柱に沿って申し上げます。

中心市街地再活性化とコンパクトシティの実現

◆中心市街地活性化事業 プロジェクトチームが主体となり策定作業を進めている「中心市街地活性化基本計画」は、現在、基本計画に盛り込むべき事業に関して、関係者と協議、調整を進めています。

主な内容は、「市街地の整備改善のための事業」のうち、中心市街地活性化のポイントとなる愛宕駅西地区では、23年度までに、愛宕西駅前線の新設整備、県道結城野田線の拡幅整備、区画

理解とご協力をいただきながら残る用地を取得し、21年度には整備工事に着手したいと考えています。

イトーヨーカドーの再出店では、旧店舗と同規模程度の店舗の建設を計画しているとのこと

具体的には、1階部分に生鮮食品と専門店、2階部分に専門店のほか、保育所の分園や歯科医院を含めた医療施設などが参入する方向で調整しています。

イトーヨーカ堂も、地域の皆さんの生活の拠点となるような店舗を考えているとのことであり、市でも、イトーヨーカ堂が千葉県と締結した「地域振興・地域貢献に関する包括協定」に基づいて、具体的な調整をしていきたいと考えています。

なお、開店時期は、22年夏ごろを目的に、調整していきたいと考えています。



給食への「野田産米」購入費の全額補助へ

次に、土地開発公社が造成している西駅前線北側の中心市街地商業用地は、駅前にあわせさまざまな分野の施設誘致を検討しているところ

具体的には、ホテル施設の入ったビルなども含め、幅広く商業活性化に資する施設の誘致を検討していきたいと考えています。

また、「(仮称)ふれあい安全安心ステーション」は、地域の方々が安心して利用できるよう、具体的な整備計画を立案し、22年度末の完成を目指して準備作業に入りたいと考えています。

「都市福祉施設の整備のための事業」の高齢者福祉施設の整備は、今年度見直し予定のシルバープランと整合を図り、高齢者の住みやすい環境を整えるべく、検討を進めたいと考えています。

「街なか居住の推進のための事業」は、エリア内の空き地、空きビルなどの適地の選定、権利者の意向などを踏まえ、引き続き民間活力を活用した事業の実施の可能性を検討したいと考えています。

「商業活性化のための事業及び措置」としてのまちづくり会社の設立は、どのような商業活性化事業を担い、事業の採算性をいかに担保するかが一番難しい課題と考えています。

また、まちづくり会社は、商工会議所や地元事業者の皆さんが中心となって運営していただくため、会社の設立と事業内容を十分納得いただいた上で進めることが重要となります。

市でも事業をスタートさせるために最大限の支援をさせていただきます。

具体的には、現在、プロジェクトチームが商工会議所と連携を図りながら、まちづくり会社がキックマン二工場跡地などに商業活性化のための施設を整備し、管理・運営することを想定して、資金調達や事業計画の検証作業を行い、事業採算性や出資金を、地元事業者の皆さんに伺いたいと考えています。

なお、まちづくり会社の資本